

教 科	受験番号
地 理 歴 史 （日本史・世界史）	

1 次の設問（1）～（15）に答えよ。

（1）各地に発生した古代の文明に関する記述として正しいものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① 東アジアでは、多数の氏族集団の連合による殷王朝が鎬京を都として形成され、国王が一族・功臣や各地の首長に封土（領地）を与えて諸侯とし、王や諸侯に従う家臣にも地位と封土を与えた。この統治制度のもとで、親族関係の秩序や祭祀のしかたを定めた宗法がつけられた。
- ② アメリカ大陸では、前1000年ごろからユカタン半島にマヤ文明が展開した。この文明は、鉄器の使用や高度な灌漑技術、文字をもたずキープといわれる縄の結び方で情報を伝達するなど独自の文化が発展していたが、16世紀にスペインによって征服され滅亡した。
- ③ 東南アジアでは、前4世紀頃に、中国の影響を受け、ベトナム北部を中心に、独特の青銅器や鉄製農具を有するドンソン文化が発展した。また、1世紀末に東南アジア最古の国家ともされる扶南がメコン川下流域に建国された。
- ④ 南アジアでは、牧畜民であるアーリア人が先住の農耕民とまじわって、ヴァルナ制が生まれ、それを背景としたバラモン教が成立した。バラモン教は、司祭による祭礼と聖典であるヴェーダの権威を重視した一神教となり、この理念を継承して、後に仏教やジャイナ教が成立した。
- ⑤ 地中海東岸では、「海の民」と呼ばれたシュメール人がウル・ウルク等の都市国家を建設し、王や神官を中心とした階級社会を形成した。彼らが始めた楔形文字は多くの民族のあいだで使用され、六十進法や太陰暦などの実用の学問も発達した。

( 2 ) 14世紀までのヨーロッパ世界に関する記述 ( a ) ~ ( c ) について、その正誤の組合せとして正しいものを、次の①~⑧の中から一つ選べ。

( a ) 異民族の侵入や軍人皇帝の出現などで分裂の危機におちいったローマ帝国において、4世紀にローマ皇帝となったコンスタンティヌスはキリスト教を公認し、帝国の統一をはかるとともに、あらたな首都を建設して巨大な官僚体制を築いた。

( b ) 東フランク王国のオットー1世がローマ皇帝の位を継承し、成立した神聖ローマ帝国では、14世紀にカール4世が「金印勅書」を發布して、世襲による専制君主制を宣言し、諸侯に対する皇帝権の優越を定めた。

( c ) 教皇ウルバヌス2世によって始められ、13世紀の第7回までおこされた十字軍は、キリスト教世界の一体化を促進させ、教皇の権威をより一層強固なものにしていった。その一方で各国王の権威は失墜し、地中海貿易による東方との交易で発展した都市は、つぎつぎに自治権を獲得し、自治都市になった。

- |   |           |           |           |   |           |           |           |
|---|-----------|-----------|-----------|---|-----------|-----------|-----------|
| ① | ( a ) = 正 | ( b ) = 正 | ( c ) = 正 | ② | ( a ) = 正 | ( b ) = 正 | ( c ) = 誤 |
| ③ | ( a ) = 正 | ( b ) = 誤 | ( c ) = 正 | ④ | ( a ) = 誤 | ( b ) = 正 | ( c ) = 正 |
| ⑤ | ( a ) = 正 | ( b ) = 誤 | ( c ) = 誤 | ⑥ | ( a ) = 誤 | ( b ) = 正 | ( c ) = 誤 |
| ⑦ | ( a ) = 誤 | ( b ) = 誤 | ( c ) = 正 | ⑧ | ( a ) = 誤 | ( b ) = 誤 | ( c ) = 誤 |

( 3 ) 17世紀から18世紀のヨーロッパ世界に関する記述として正しいものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① ヨーロッパ商業の世界的広がり、商品の種類・取引額の拡大や遠隔地貿易の中心が地中海から大西洋にのぞむ国々へと移動する商業革命を発生させ、資本主義経済の発達をうながした。また、ポトシ銀山の発見により、ラテンアメリカの銀山から大量の銀がヨーロッパに流入したことで価格革命と呼ばれる急激な物価下落がおこった。
- ② 新教徒と旧教徒の対立に端を発した三十年戦争は、宗教的対立をこえたハプスブルク家対フランスの戦いにもなった。スペインやデンマーク、スウェーデンなども加わった戦いは、ウェストファリア条約で終結した。講和条約が大半のヨーロッパ諸国が参加した国際会議でまとめられ、ヨーロッパの主権国家体制の確立を示すものとなった。戦場となったドイツでは人口が激減し、長く停滞することになり、ハプスブルク家の勢力は後退した。
- ③ ロシアでは、ピョートル1世による改革が始められ、軍備の拡大を背景にシベリア経営をすすめ、清とネルチンスク条約を結んで両国の境界を定め通商を開き、南方ではオスマン帝国を圧迫して黒海北部のアゾフ海に進出した。また、北方戦争によってフィンランドやバルト三国を併合すると、バルト海の覇者としての地位を確立した。
- ④ イギリスでは、専制政治を行ったジェームズ2世に対して、議会在オランダ総督ウィレム3世と妻メアリを招くと国王は海外へ亡命した。即位したウィリアム3世とメアリ2世の下で首相となったウォルポールが、議会に対してのみ責任を負う責任内閣制を形成し、立憲君主制を基本とする大ブリテン王国が成立した。
- ⑤ 「君主は国家第一の僕」を自称するフリードリヒ＝ヴィルヘルム1世統治下のプロイセンでは、産業の育成、司法の改革など、国民の福祉向上を目標に掲げた政策を展開し、ユンカーを支柱とした近代的な統治を行い、農民の地位向上が進んだ。対外的にはオーストリア継承戦争でシュレジエンを獲得すると、七年戦争でシュレジエンを確保し、ヨーロッパの強国の地位についた。

( 4 ) 第一次世界大戦後から第二次世界大戦開戦までのアジア、アフリカに関する記述として正しいものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① インドでは、あらたなインド統治法によってインド各州の自治が認められたが、ヒンドゥー教徒とムスリムの対立が激しくなり、インドの西部地方はパキスタンとして独立した。
- ② 中国では国民党と共産党の対立が激しくなり、国民政府を樹立し中国統一を目指す蒋介石率いる国民党と土地改革などを実行して農民の支持を得た毛沢東を主席とする共産党との内戦へと発展し、敗北した蒋介石は台湾へ逃れ、国民政府の存続を図った。
- ③ トルコでは、ケマル＝アタテュルクが、治外法権の廃止や関税自主権の回復を達成し、国内の積極的な近代化を進めた。一方で、オスマン帝国の解体で、クルド自治区が実現する可能性もあったが実現はしなかった。
- ④ パレスチナでは、イギリスとの間で民族自決の原則に従い、フセイン・マクマホン協定によりアラブ人にオスマン帝国からの独立が約束され、一方で、バルフォア宣言によってユダヤ人のパレスチナ復帰運動を援助する姿勢が示された。
- ⑤ ワフド党を中心とした独立運動が展開されたエジプトでは、イギリスがエジプトに対する保護権を放棄したことでエジプト王国が成立した。同時にエジプトは、イギリスからスエズ運河の管理権を継承し、スエズ運河を国有化することを宣言した。

( 5 ) 第二次世界大戦後の世界に関する記述 ( a ) ~ ( d ) が、古いものから年代順に正しく並べられているものを、次の①~⑥の中から一つ選べ。

- ( a ) 国際社会における平和維持を目的として設立された国際連合において、人種・性・宗教などによる差別を禁止した世界人権宣言が採択された。
- ( b ) 南アフリカでは、差別法を全廃し、平等な選挙権を認めた結果、アフリカ民族会議の指導者であるマンデラが大統領に当選した。
- ( c ) 中国では、鄧小平を中心とした指導部が、急激な改革による動揺を背景に、共産党の一党支配や経済改革に不満をもつ学生や知識人による民主化要求の集会を弾圧する天安門事件が発生した。
- ( d ) アメリカでは、キング牧師によって指導された公民権運動が展開され、ジョンソン大統領の下で、選挙権や公共施設での人種差別を禁止する公民権法が成立した。

- ① ( a ) → ( b ) → ( c ) → ( d )      ② ( d ) → ( b ) → ( c ) → ( a )
- ③ ( a ) → ( c ) → ( b ) → ( d )      ④ ( d ) → ( c ) → ( a ) → ( b )
- ⑤ ( a ) → ( d ) → ( c ) → ( b )      ⑥ ( d ) → ( a ) → ( b ) → ( c )

( 6 ) ( a )、( b ) の記述と、地図中に示した場所 A ~ D の組合せとして正しいものを、次の①~⑥の中から一つ選べ。

( a ) この遺跡は、縄文時代を代表する拠点集落の遺跡である。出土した土器は、縄文時代の前期中頃から中期末まで、各時期のものが継続しており、およそ 5 5 0 0 年前から 4 0 0 0 年前まで、約 1 5 0 0 年もの長期にわたり、この地に人々が定住生活をしてきたことが明らかになった。

( b ) この地に、1 5 4 3 年、ポルトガル人を乗せた中国人倭寇の船が漂着した。領主はポルトガル人のもっていた鉄砲 2 挺を購入し、家臣にその使用法と製造法を学ばせた。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

- |   |           |           |   |           |           |
|---|-----------|-----------|---|-----------|-----------|
| ① | ( a ) = A | ( b ) = B | ② | ( a ) = A | ( b ) = C |
| ③ | ( a ) = A | ( b ) = D | ④ | ( a ) = C | ( b ) = A |
| ⑤ | ( a ) = C | ( b ) = B | ⑥ | ( a ) = C | ( b ) = D |

( 7 ) 日本の仏教に関する記述として誤っているものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① 7世紀後半につくられた中宮寺半跏思惟像は、片足を膝に置き、片手を頬に当て思惟する姿で、中国南朝（梁）様式の影響が認められる。
- ② 奈良時代には、インドや中国で生まれたさまざまな仏教理論の研究が進められ、三論・成実・法相・俱舎・華嚴・律の南都六宗と呼ばれる学系が形成された。
- ③ 唐に留学した最澄は、帰国後比叡山に延暦寺を建て、法華経の信仰にもとづいて天台宗をおこした。
- ④ 10世紀半ばに源信（恵心僧都）が京の市で浄土教を説き、ついで空也が『往生要集』を著して念仏往生の教えを説くと、浄土教は貴族をはじめ庶民の間にも広まった。
- ⑤ 坐禅によってみずからを鍛錬し、釈迦の境地に近づくことを主張する禅宗は、12世紀末頃、宋に渡った天台の僧栄西によって日本に伝えられた。

( 8 ) 日本史に登場する将軍に関する記述 ( a ) ~ ( d ) について、その正誤の組合せとして正しいものを、次の①~⑥の中から一つ選べ。

- ( a ) 源頼朝は、逃亡した源義経をかくまったとして奥州藤原氏を滅ぼすと、1190年には念願の上洛が実現して右近衛大将となり、1192年、後白河法皇の死後には、征夷大將軍に任ぜられた。
- ( b ) 足利義満は、幕府を開く目的のもとに当面の政治方針を明らかにした建武式目を発表し、1378年、京都の室町に邸宅を建てて幕府を移し、1392年に南北朝の合一を実現した。
- ( c ) 徳川吉宗は、政策実行のために旗本の大岡忠相や宿駅の名主であった田中丘隅ら、有能な人材を多く登用し、また荻生徂徠や室鳩巢らの儒学者を用いて、将軍みずから先頭に立って改革に取り組んだ。
- ( d ) 徳川慶喜は、イギリスの援助のもとに幕府政治の立て直しをはかったが、公武合体の立場をとる薩摩藩の大政奉還の建議を受け入れて、1867年10月14日に、政権を朝廷に返し、新たな政治体制の中で主導権を握ろうとした。

- ① ( a ) = 正 ( b ) = 正 ( c ) = 誤 ( d ) = 誤
- ② ( a ) = 正 ( b ) = 誤 ( c ) = 正 ( d ) = 誤
- ③ ( a ) = 正 ( b ) = 誤 ( c ) = 誤 ( d ) = 正
- ④ ( a ) = 誤 ( b ) = 誤 ( c ) = 正 ( d ) = 正
- ⑤ ( a ) = 誤 ( b ) = 正 ( c ) = 正 ( d ) = 誤
- ⑥ ( a ) = 誤 ( b ) = 正 ( c ) = 誤 ( d ) = 正



( 9 ) 近代の日本の社会・経済に関する記述として正しいものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① 政府は、商人・地主など民間の力で金貨と交換できる兌換銀行券を発行させようと、1872年、渋沢栄一を中心に国立銀行条例を定め、翌年に第一国立銀行などを設立させたが、その経営は困難で、ただちに兌換制度を確立することはできなかった。
- ② 高橋是清が大蔵卿に就任すると、増税によって歳入の増加をはかる一方、軍事費以外の歳出を徹底的に緊縮した。そして、歳入の余剰で不換紙幣を処分するデフレ政策をとりながら正貨の蓄積を進め、1882年、中央銀行として日本銀行を設立した。
- ③ 近代工業の発達にともなって公害問題が発生し、足尾銅山の鉱毒が流出して渡良瀬川中下流の沿岸に大きな被害をあたえる事件がおこった。栃木県選出の代議士田中正造が議会で政府を追及すると、公害を批判する世論が高まり、公害対策基本法が制定された。
- ④ 第一次世界大戦は、明治末期からの不況と財政危機とを一挙に吹き飛ばした。この時期には、工業生産額の3分の2を重化学工業が占め、石炭から石油へのエネルギーの転換が急速に進んだ。
- ⑤ 金輸出解禁を実施した直後に、関東大震災で大きな打撃を受けたため、日本経済は解禁による不況とあわせて二重の打撃を受け、深刻な恐慌状態におちいった。

(10) 第二次世界大戦後の日本の外交に関する記述(a)～(d)が、古いものから年代順に正しく並べられているものを、次の①～⑥の中から一つ選べ。

(a) 米中接近のもとで、日中共同声明が調印され、日中両国の戦争状態は終わり、国交が正常化した。

(b) 日ソ共同宣言が調印されソ連との国交が回復すると、それを受けて、日本の国際連合への加盟が認められた。

(c) 日韓基本条約が結ばれ、1910年の韓国併合以前に締結された条約および協定の無効を確認し、韓国政府を「朝鮮にある唯一の合法的な政府」と認めたことで、韓国との国交が樹立した。

(d) サンフランシスコ平和条約の調印と同じ日、日米安全保障条約が調印され、極東の平和と安全を守るという理由で、日本の独立後もアメリカ軍が駐留を続けることになった。

① (a) → (b) → (d) → (c)

② (a) → (d) → (c) → (b)

③ (a) → (d) → (b) → (c)

④ (d) → (a) → (b) → (c)

⑤ (d) → (b) → (c) → (a)

⑥ (d) → (b) → (a) → (c)

- (11) グラフは、地域別の森林面積の変化である。AとDに当てはまる地域の組合せとして正しいものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

- |              |            |           |           |
|--------------|------------|-----------|-----------|
| ① A = アジア    | D = 南米     | ② A = アジア | D = オセアニア |
| ③ A = アジア    | D = 北米及び中米 | ④ A = 南米  | D = アジア   |
| ⑤ A = 北米及び中米 | D = アジア    |           |           |

- (12) 表は、2018年における日本、アメリカ、フランス、ドイツ、ブラジルの発電量の構成比である。A～Dに当てはまる国の組合せとして正しいものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

国名	火力	原子力	水力	その他
アメリカ	63.7%	18.9%	7.1%	10.4%
A	72.6%	6.1%	8.4%	12.9%
B	8.1%	71.0%	12.1%	8.8%
C	51.0%	11.8%	3.8%	33.5%
D	15.1%	2.6%	64.7%	17.7%

(IEA「Data and statistics」より作成)

- ① A = ドイツ B = フランス C = 日本 D = ブラジル  
② A = ドイツ B = 日本 C = ブラジル D = フランス  
③ A = 日本 B = ドイツ C = ブラジル D = フランス  
④ A = 日本 B = フランス C = ドイツ D = ブラジル  
⑤ A = 日本 B = ブラジル C = フランス D = ドイツ

- (13) A～Eの人口ピラミッドの型に関する記述として正しいものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

- ① Aは、就職や進学に伴い、若者が大都市などへ転出することから、20歳前後を中心とした年齢において層が薄くなる。
- ② Bは、生産年齢人口の若年層（20～40歳ぐらい）の転入が活発で、この年齢層を中心とした構成比がかなり高い。
- ③ Cは、老年人口の比率が高まることから、生産年齢人口が負担する医療・福祉などの費用が多くなる。
- ④ Dは、出生率の低下により、年少人口から生産年齢人口の比較的広い年齢層において、構成比が似通う。
- ⑤ Eは、子どもが労働力として期待されており、出生率が高いが、乳幼児死亡率も高いため底辺だけが広がる。

- (14) 中国に関する以下の文章の空欄に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

中国では計画経済の仕組みが導入され、農村では、集団で農業や工場を営むとともに、行政、教育の機能をもつ  とよばれる組織がつけられた。1970年代末からは市場経済を取り入れ、外国からの投資も受け入れるようになった。

2001年には、 国内の市場を大きく開放したことで、外国企業がさらに中国に進出するようになった。

- ① A = 郷鎮企業 B = WTOに加盟して
- ② A = 郷鎮企業 B = 西部大開発の方針をうち出して
- ③ A = 人民公社 B = WTOに加盟して
- ④ A = 人民公社 B = 西部大開発の方針をうち出して
- ⑤ A = 人民公社 B = 経済特区や経済技術開発区を設けて

- (15) アフリカの地形や気候に関する記述X～Zについて、その正誤の組合せとして正しいものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

X アフリカ大陸の北西部には古期造山帯に属するアトラス山脈が、南東部には新期造山帯に属するドラケンスバーグ山脈が連なっている。

Y マダガスカルは南東貿易風帯にあるため、風上である西部に雨が多く、1～3月にはサイクロンに襲われることもある。

Z 赤道付近にあるケニア山やキリマンジャロ山などの5000mをこえる高地には、万年雪がみられる。

- ① X = 正 Y = 正 Z = 誤
- ② X = 正 Y = 誤 Z = 誤
- ③ X = 誤 Y = 正 Z = 正
- ④ X = 誤 Y = 正 Z = 誤
- ⑤ X = 誤 Y = 誤 Z = 正

2 次の設問（16）～（30）に答えよ。

（16） 原始・古代の日本の外交に関する記述として誤っているものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① 『後漢書』東夷伝によると、紀元57年に倭の奴国の王の使者が後漢の都洛陽におもむいて光武帝から印綬を受け、107年には倭国王帥升等が生口160人を安帝に献じた。
- ② 『魏志』倭人伝によると、邪馬台国の卑弥呼は、239年、魏の皇帝に使いを送り、「親魏倭王」の称号と金印、さらに多数の銅鏡などをおくられた。
- ③ 朝鮮半島南部をめぐる外交・軍事上の立場を有利にするため、5世紀初めから約1世紀近くのあいだ、『宋書』倭国伝に讚・珍・濟・興・武と記された倭の五王があいついで中国の南朝に朝貢した。
- ④ 607年に小野妹子が遣隋使として中国に渡ったが、この時の隋への国書は中国皇帝に臣属しない形式をとり、煬帝から無礼とされた。
- ⑤ 遣唐使たちは、唐から先進的な政治制度や国際的な文化をもたらし、日本に大きな影響を与え、とくに帰国した高向玄理や旻は、のち聖武天皇に重用されて政界でも活躍した。

（17） 10世紀の日本に関する記述として正しいものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① 後三条天皇は、荘園の増加が公領（国衙領）を圧迫しているとして、延久の荘園整理令を出した。中央に記録荘園券契所（記録所）を設けて、荘園の所有者から提出された証拠書類（券契）と国司の報告とをあわせて審査し、年代の新しい荘園や書類不備のものなど、基準にあわない荘園を停止した。
- ② 政府は、墾田永年私財法を発し、開墾した田地の私有を永年にわたって保障した。この法は、政府の掌握する田地を増加させることにより土地支配の強化をはかる積極的な政策であったが、その一方で貴族・寺院や地方豪族たちの私有地拡大を進めることとなった。
- ③ 受領たちの中には、巨利を得ようとする強欲なものもあり、郡司や有力農民からしばしば暴政を訴えられた。例えば、尾張国守藤原元命は、「尾張国郡司百姓等解」によって訴えられ、解任された。
- ④ 地頭の支配権拡大の動きに直面した荘園・公領の領主たちは、紛争解決のために、やむを得ず地頭に荘園の管理いっさいを任せて、一定の年貢納入だけを請け負わせる地頭請所の契約を結ぶなどした。
- ⑤ 中央の国家財政の維持が困難になると、政府は大宰府において公営田を、畿内に官田を設けて、有力農民を利用した直営方式を採用して収入をはかるなど、財源の確保につとめた。

(18) 中世の文化に関する記述として、(ア)が誤りで、(イ)が正しい組合せを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① (ア) 鴨長明は移りゆく世の無常を『方丈記』に記し、兼好法師は無常観をもとに『徒然草』を著した。  
(イ) 重源は、寄付集めの責任者(大勧進)となって東大寺の再建にあたり、夢窓疎石の協力を得て、大陸から新たに大仏様(天竺様)の技法を取り入れた。
- ② (ア) 南北朝時代の歴史書には、伊勢神道の理論を背景に南朝の立場から皇位継承の道理を説いた北畠親房の『神皇正統記』、足利氏の政権獲得までの過程を武家の立場から記した『梅松論』などがある。  
(イ) 一条兼良は、『愚管抄』で歴史を貫く原理を探り、道理による歴史の解釈を試み、ゆたかな教養をもとに『樵談治要』を著して室町将軍に政道を説いた。
- ③ (ア) 観阿弥・世阿弥父子は、狂言の脚本である謡曲を数多く著すとともに、世阿弥は、狂言の真髓を述べた『風姿花伝』(花伝書)などの理論書も残した。  
(イ) 遣明船で明に渡り、作画技術を学んだ雪舟は、帰国後、禅画の制約を乗り越えた日本的な水墨画様式を創造した。
- ④ (ア) 京都の東山に建てられた慈照寺銀閣の下層や東求堂同仁斎は、東山文化の中で生まれた書院造を代表する建物である。  
(イ) 足利義政の時代になると村田珠光が禅の精神を取り入れた佗茶の方式を編み出し、茶道の基礎を築き、のちに堺の武野紹鷗がこれを受けついだ。
- ⑤ (ア) 南北朝時代に出た宗祇は『閑吟集』を撰し、連歌の規則書として『応安新式』を制定したが、『閑吟集』が勅撰集と同格とみなされてからは、和歌と対等の地位を築いた。  
(イ) 15世紀中頃、鎌倉公方足利持氏が足利学校を再興し、ここでは全国から集まった禅僧・武士に対して高度な教育がほどこされ、多数の書籍の収集もおこなわれた。



(19) 江戸時代の幕府政治に関する記述(a)～(d)が、古いものから年代順に正しく並べられているものを、次の①～⑥の中から一つ選べ。

- (a) 大名から石高1万石について100石を臨時に上納させる上げ米を実施し、そのかわりに参勤交代の負担をゆるめた。
- (b) 朝鮮通信使の国書に、それまでの「日本国大君」にかえて「日本国王」と記させ、待遇も簡素化して将軍の権威を高めようとした。
- (c) 兵学者由井(比)正雪の乱がおこると、幕府は大名の末期養子の禁止を緩和し、牢人の増加を防ぐ一方、江戸に住む牢人とともにかぶき者の取締りを強化した。
- (d) 治安対策として人別改めを強めるとともに石川島に人足寄場を設け、無宿人を強制的に収容し、技術を身につけ職業をもたせようと試みた。

- ① (a) → (b) → (c) → (d)
- ② (a) → (d) → (b) → (c)
- ③ (b) → (d) → (c) → (a)
- ④ (b) → (a) → (d) → (c)
- ⑤ (c) → (a) → (b) → (d)
- ⑥ (c) → (b) → (a) → (d)

- (20) 江戸時代の史料Ⅰ、Ⅱに関する記述(a)～(d)について、正しいものの組合せを、次の①～⑥の中から一つ選べ。

史料Ⅰ

一 日本国御制禁成され候吉利支丹宗門の儀、其趣を存知ながら、彼の法を弘むるの者、今に密々差渡るの事。

……自今以後、かれうた渡海の儀、之を停止せられ訖。此上若し差渡るニおゐてハ、其船を破却し、并乗来る者速に斬罪に処せらるべきの旨、仰せ出さるる者也。

(出典：『御当家令条』)

史料Ⅱ

……日本は海国なれば、渡海・運送・交易は、固より国君の天職最第一の国務なれば、万国へ船舶を遣りて、国用の要用たる産物、及び金銀銅を抜き取て日本へ入れ、国力を厚くすべきは海国具足の仕方なり。……

(出典：『経世秘策』)

- (a) 史料Ⅰの法令が出されたときの幕府の将軍は、徳川秀忠である。  
(b) 史料Ⅰの法令によって、ポルトガル船の来航は禁止された。  
(c) 史料Ⅱは、18世紀末頃に、本多利明が主張した経世論である。  
(d) 史料Ⅱによると、日本は国力があるので、あらゆる国に船舶を派遣し、金銀銅を輸入する必要はないと述べている。

- ① (a)・(b)      ② (a)・(c)      ③ (a)・(d)  
④ (b)・(c)      ⑤ (b)・(d)      ⑥ (c)・(d)

(2.1) 史料Ⅲ、Ⅳの法令は、年表中A～Eのどの時期に出されたか、その組合せとして正しいものを、次の①～⑥の中から一つ選べ。

史料Ⅲ

第一条 国体ヲ変革シ又ハ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シ又ハ情ヲ知リテ之ニ加入シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ処ス。……  
(出典：『官報』)

史料Ⅳ

第一条 本法ニ於テ国家総動員トハ戦時（戦争ニ準ズベキ事変ノ場合ヲ含ム以下之ニ同ジ）ニ際シ国防目的達成ノ為、国ノ全カヲ最モ有効ニ發揮セシムル様、人的及物的資源ヲ統制運用スルヲ謂フ  
(出典：『官報』)

<年表>

世紀	できごと
19	日清戦争が始まる A
	日露戦争が始まる B
	第一次世界大戦が始まる C
20	満州事変がおこる D
	日中戦争が始まる E
	ポツダム宣言を受諾する

- ① Ⅲ＝A Ⅳ＝D      ② Ⅲ＝A Ⅳ＝E      ③ Ⅲ＝B Ⅳ＝D  
④ Ⅲ＝B Ⅳ＝E      ⑤ Ⅲ＝C Ⅳ＝D      ⑥ Ⅲ＝C Ⅳ＝E

- (22) 地図中に示したA～Dの場所に関する記述(a)～(d)について、その正誤の組合せとして正しいものを、次の①～⑥の中から一つ選べ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

- (a) Aには、1945年、人類史上はじめて製造された原子爆弾が投下された。  
(b) Bには、1905年、第2次日韓協約にもとづいて、統監府が設置された。  
(c) Cでは、1937年、日中両軍の衝突事件である盧溝橋事件が発生した。  
(d) Dでは、1895年、日本全権伊藤博文・陸奥宗光と清国全権李鴻章とのあいだで、日清戦争の講和条約が結ばれた。

- ① (a) = 正 (b) = 正 (c) = 誤 (d) = 誤  
② (a) = 正 (b) = 誤 (c) = 誤 (d) = 正  
③ (a) = 正 (b) = 誤 (c) = 正 (d) = 誤  
④ (a) = 誤 (b) = 正 (c) = 誤 (d) = 正  
⑤ (a) = 誤 (b) = 誤 (c) = 正 (d) = 正  
⑥ (a) = 誤 (b) = 正 (c) = 正 (d) = 誤

(23) 近現代史に登場する人物に関する記述として、(ア)が正しく、(イ)が誤りの組合せを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① (ア) ボアソナードは、日本美術を高く評価して、岡倉天心と協力して日本画の復興につとめ、二人の尽力で日本画を重視した東京美術学校が設立された。
- (イ) 津田梅子は、岩倉具視を大使とする岩倉使節団に留学生として同行し、のちに女子英学塾を開き、個性の尊重を重視した教育や、英語教師となるための教育をおこなった。
- ② (ア) 小村寿太郎は、第1次桂太郎内閣の外相として日英同盟の調印、日露戦争の外交に当たり、第2次桂太郎内閣の外相として韓国併合と関税自主権の回復に当たった。
- (イ) 立憲政友会の尾崎行雄は、第3次桂太郎内閣が組織されると、立憲国民党の犬養毅らと「閥族打破、憲政擁護」をスローガンに倒閣運動をおこした。
- ③ (ア) 吉野作造は、国民主権を意味する民主主義とは一線を画し、天皇主権を規定する明治憲法の枠内で民主主義の長所を採用するという民本主義を主張し、政党内閣制と普通選挙の実現を説いた。
- (イ) 原敬は、華族でも藩閥でもない、貴族院に議席をもつ首相であったため「平民宰相」と呼ばれ、国民から歓迎されたが、米騒動に軍隊を出動させて鎮圧に当たった責任を追及され、東京駅で暗殺された。
- ④ (ア) 野口英世は、梅毒の病原体の培養や症状の研究に力をそそぎ、黄熱病の研究にも取り組んだ。
- (イ) 理論物理学者の湯川秀樹は、1949年に日本人ではじめてノーベル賞を受賞した。
- ⑤ (ア) 池田勇人は、「日本列島改造論」を掲げ、自由民主党の初代総裁に選出されて内閣を組織すると、「国民所得倍増計画」を打ち出し、経済の高度成長を促進する政策を進めた。
- (イ) 中曽根康弘は、「戦後政治の総決算」をとなえて内閣を組織すると、行財政改革に着手し、1985年には官営事業として営んできた電信・電話事業とたばこ産業を、1987年には日本国有鉄道を民営化するとともに、消費税導入を実現させた。

(24) 紀元前1世紀から紀元後1世紀の世界に関する記述として正しいものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① ローマでは、プトレマイオス朝を滅ぼしたオクタウィアヌスが、ほとんどすべての要職を兼任し、全政治権力を手中におさめる元首政を始めた。
- ② 中国では、商鞅の改革によって国力を増強した秦が中国統一を果たし、始皇帝は度量衡の統一や焚書・坑儒などにより皇帝権力の強化と中央集権化を推進した。
- ③ インドでは、マウリヤ朝がアショーカ王の時代に最盛期を迎え、仏教に帰依した王は武力による統治から法による統治へと転換し、仏典の結集や布教を積極的におこなった。
- ④ 日本では、ヤマト政権の王が中国へ継続的に使者を送り、また、朝鮮半島に存在した百済と結び新羅や高句麗と対立した。
- ⑤ 中央アジアでは、冒頓単于が率いる匈奴が、西では月氏を攻撃しオアシス地帯を勢力下におさめ、東では前漢への侵入を繰り返し、勢力を拡大した。

(25) 4世紀から6世紀のアジア世界の形成と発展に関する記述(a)～(c)について、その正誤の組合せとして正しいものを、次の①～⑧の中から一つ選べ。

- (a) 西アジアでは、ササン朝がジハード(聖戦)を展開し、異民族を征服し広大な領土を獲得してメソポタミアからインド北西部に至る広大な帝国を形成したが、イスラーム王朝のウマイヤ朝との争いに敗れ滅亡した。
- (b) 南アジアでは、ギリシア系民族によるクシャーナ朝がおこり、カニシカ王の時代に最盛期を迎えるとともに、民間の信仰や慣習を吸収して形成されたヒンドゥー教が社会に定着するようになった。
- (c) 東アジアでは、北魏の孝文帝が均田制や三長制をしいて農耕民社会の安定につとめ、鮮卑の服装や言語を禁止するなど積極的な漢化政策をうち出したが、政策に反発する軍人の反乱をきっかけに、北魏は東西に分裂した。

- |   |         |         |         |   |         |         |         |
|---|---------|---------|---------|---|---------|---------|---------|
| ① | (a) = 正 | (b) = 正 | (c) = 正 | ② | (a) = 正 | (b) = 正 | (c) = 誤 |
| ③ | (a) = 正 | (b) = 誤 | (c) = 正 | ④ | (a) = 誤 | (b) = 正 | (c) = 正 |
| ⑤ | (a) = 正 | (b) = 誤 | (c) = 誤 | ⑥ | (a) = 誤 | (b) = 正 | (c) = 誤 |
| ⑦ | (a) = 誤 | (b) = 誤 | (c) = 正 | ⑧ | (a) = 誤 | (b) = 誤 | (c) = 誤 |

(26) ヨーロッパとアジアの文化の特色に関する記述(a)～(d)について、正しいものの組合せを、次の①～⑥の中から一つ選べ。

- (a) イスラーム文明は、アラビア語とイスラーム教が融合して形成された都市文明であるとともに、イスラーム世界のいたる所で受け入れられている普遍的な文明であった。このことから、地域や民族の特色が現れない統一的な文化が形成されていった。
- (b) 中世ヨーロッパでは、神学が最高の学問とされ、聖職者や修道士が学者・知識人として学問の国際的共通語であるギリシア語をもちいて、大学を中心に活動をした。
- (c) ルネサンス期の学者や芸術家は都市に住む教養人であり、その多くは権力者のもとで活動した。そのため、ルネサンスは貴族的性格をおび、既存の政治・教会・社会体制を正面から批判する力とはならなかった。
- (d) モンゴル帝国の成立により、東西の交通路が整備されたため、東西文化の交流が盛んになり、ローマ教皇庁との使節交換がきっかけとなって、中国でカトリックが布教されたり、中央アジアのモンゴル君主がイスラームに改宗したりした。

- ① (a)・(b)            ② (a)・(c)            ③ (a)・(d)
- ④ (b)・(c)            ⑤ (b)・(d)            ⑥ (c)・(d)

(27) 下の図のA～Eはイスタンブル、カイロ、イスファハーン、広州、マニラのいずれかである。これらの都市に関する記述として正しいものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。ただし、図中の国境は現在のものである。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

- ① Aはかつてローマ帝国やビザンツ帝国の都が置かれ、コンスタンティノーブルと呼ばれた。十字軍によってこの地にエルサレム王国が建設されてからは、イスタンブルの呼称が一般化し、オスマン帝国の下で最盛期を迎えた。
- ② Bはエジプトの中心地として発展したカイロである。ヘレニズム時代にはムセイオンが建設され学術の中心となった。イスラーム王朝の下では、アズハル学院が建設され、スンナ派イスラーム教の信仰と学問活動の分野で、中心的役割をはたすようになった。
- ③ Cはサファヴィー朝が最盛期を迎えたアッバース1世の治世下で建設された新首都イスファハーンである。モスク・学院・庭園などが建設され、「イスファハーンは世界の半分」といわれるほど繁栄した。
- ④ Dは永楽帝の統治下で唯一のヨーロッパ船の寄港地とされた広州である。貿易のために多くの船舶が寄港する港湾として発展し、明では公行という特定の商人組合によって貿易が管理された。
- ⑤ Eはポルトガルの東南アジアでの根拠地となったマニラである。ポルトガル支配下のアメリカ大陸で産出された銀はメキシコから積み出され、太平洋を横断してこの地に運ばれ、中国産の絹や陶磁器、インド産綿布と取り引きされた。



(28) 19世紀から20世紀初頭のヨーロッパ・アメリカ諸国における近代国家の発展についての記述と海外進出についての記述がともに誤っているものを、次の①～⑤から一つ選べ。

	近代国家の発展	海外進出
アメリカ	<p>ジャクソン大統領は、すべての白人男性に選挙権を与えるとともに、北部の企業家を支持基盤とする民主党の結成を促進した。</p> <p>また、西部の開拓が進み、交通や通信網が整備され、1890年代にはフロンティアが消滅した。</p>	<p>モンロー大統領がヨーロッパとの相互不干渉を表明し、これはその後長く、外交政策の基本となった。</p> <p>セオドア＝ローズヴェルト大統領の下では中米諸国に対して武力干渉をおこなう棍棒外交を展開した。</p>
イギリス	<p>1832年にホイッグ党内閣の下で選挙法の改正が実現し、資本家や中流階級の政治的発言力が強まった。</p> <p>より民主的な選挙制度を求める労働者は、1830年代後半から、人民憲章を掲げチャーティスト運動をおこし、請願運動を組織した。</p>	<p>アフリカ縦断をとらえ、ファショダでフランスと衝突したが、フランスの譲歩により解決した。</p> <p>アフリカ南部ではケープ植民地の首相ローズの指導で、トランスヴァール・オレンジ両国を併合した。</p>
イタリア	<p>ガリバルディからシチリアをゆずられたヴィットーリオ＝エマヌエーレ2世が、1861年にイタリア国王に即位した。</p> <p>1870年にはローマ教皇領を占領したことで国家統一が達成されたが、一部の領土はオーストリアにとどまったままであった。</p>	<p>1880年代にソマリランド・エリトリアを獲得した後、アドワの戦いによってエチオピアを植民地とした。</p> <p>1911年から1912年にはイタリア＝トルコ戦争をおこして、オスマン帝国からリビア(トリポリ・キレナイカ)を奪った。</p>
ドイツ	<p>宰相となったビスマルクは、ロシア＝トルコ戦争後のベルリン会議で各国の利害を調停した。その結果、あらたに結ばれたサン＝ステファノ条約でロシアの拡大を抑えた。</p> <p>1887年には再保障条約により南下を計画するロシアを包囲し、孤立させる体制を強化させていった。</p>	<p>太平洋地域に進出し、メラネシアやマイクロネシアの島々を植民地として獲得していった。</p> <p>アフリカでの利権獲得を目指し、カメルーンや東アフリカを獲得した後、1912年にフランスとの植民地争いを制し、モロッコを保護国とした。</p>
フランス	<p>第二帝政崩壊後、臨時国防政府が成立したが、普仏戦争の講和条約に反対する社会主義者やパリの民衆により樹立されたパリ＝コミューンにパリを明けわたした。</p> <p>臨時政府側は、ティエールの指導のもとコミューン政府を倒し、1875年に共和国憲法を制定した。</p>	<p>カトリック教徒の保護を名目にベトナムへの軍事介入を始めたフランスは、南部地域を奪い、さらに領土拡大へと動いた。</p> <p>清仏戦争の結果、フランスはベトナムの植民地化に成功し、保護国としてきたカンボジアとあわせてフランス領インドシナ連邦を成立させた。</p>

① アメリカ      ② イギリス      ③ イタリア      ④ ドイツ      ⑤ フランス

- (29) (a)～(c)の<民主化に関する記述>と、(d)～(f)の<核兵器の制限や廃絶に関する記述>のうち、年表のDの期間に当てはまる正しいものの組合せを、次の①～⑨の中から一つ選べ。

<年表>	1949年	北大西洋条約機構(NATO)結成	A
	1959年	カストロが指導するキューバ革命の成功	B
	1969年	西ドイツで社会民主党を中心とした連立政権成立	C
	1979年	米中国交正常化	D
	1989年	マルタ会談で冷戦終結を宣言	E
	1999年	EUで決済通貨としてユーロ発行	

<民主化に関する記述>

- (a) チェコスロバキアでは、「プラハの春」と呼ばれた民主化を求める市民運動がおり、共産党書記長になったドブチェクが自由化を推進した。
- (b) 東ドイツでは、西側への脱出者が急増してホネカー書記長が退陣し、ベルリンの壁が開放され、東西ドイツ間の自由な行き来が認められた。
- (c) ソ連では、ソ連共産党が解散し、ロシア連邦を中心に独立国家共同体(CIS)が結成され、ソ連は解体した。

<核兵器の制限や廃絶に関する記述>

- (d) 国連総会で、地下核実験を含む核実験の全面的な禁止をとりきめた包括的核実験禁止条約(CTBT)が採択された。
- (e) 軍縮による大幅な財政赤字削減を期待したアメリカは、ソ連との交渉により中距離核戦力(INF)の全廃について合意した。
- (f) ビキニ環礁での水爆実験で第五福竜丸が被爆した事件を受け、すべての核兵器の廃絶を求めて、パグウォッシュ会議が開催された。

- |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|
| ① (a)・(d) | ② (a)・(e) | ③ (a)・(f) |
| ④ (b)・(d) | ⑤ (b)・(e) | ⑥ (b)・(f) |
| ⑦ (c)・(d) | ⑧ (c)・(e) | ⑨ (c)・(f) |

(30) 東アジア、西アジア、南アジア、西ヨーロッパ、ロシアの各時代における税や農民を取り巻く環境に関する記述として、(ア)と(イ)がともに正しい組合せを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① (ア) 唐では、8世紀に、人口増加や商業の発達にともない、農民のあいだに貧富の差が開き、没落して逃亡する農民が増え、均田制と租調庸制がくずれると、財政再建のため、所有する土地に応じて夏・秋2回の税を課すことにした。
- (イ) 明では、政治の安定のもと人口が急増し、土地の相対的な不足は多くの土地なし農民をうみだした。税制では人頭税が土地税にくりこまれ、一括して銀納させる地丁銀制が採用され制度の簡略化がはかられた。
- ② (ア) ウマイヤ朝では、アラブ人は特権階級とされ、地租と人頭税は征服地の先住民だけに課せられた。アッバース朝では、非アラブ人も政府の要職につき、ムスリムであれば人頭税と地租の負担がすべて免除され、アラブ人の特権が失われていった。
- (イ) 西アジアでは、9世紀半ば以降、マムルーク軍人が台頭し、地方に独立の小王朝が樹立されると、カリフ権は衰え、国庫収入はしだいに減少していった。10世紀には軍人が、国家から授与された分与地から俸給にみあう金額を、直接、農民や都市民から徴税する制度が開始された。
- ③ (ア) ムガル帝国では、アクバルがイスラーム教徒とヒンドゥー教徒の融合をはかり、非イスラーム教徒に課されていた人頭税を廃止した。17世紀に即位したアウラングゼーブはイスラーム教に帰依し、人頭税を復活させるなどヒンドゥー教徒を圧迫した。
- (イ) 植民地時代のインドでは、19世紀半ばにインド全域を支配下に入れたイギリス東インド会社が、直轄支配地で重い地税を徴収し、ベンガル管区では、領主層・地主層に土地所有権を与えて納税させる制度が、マドラス・ボンベイ両管区では耕作者、自作農に土地所有権を認めて直接納税させる制度が用いられた。
- ④ (ア) 封建体制下の西ヨーロッパでは、農民が領主から土地を与えられる代わりに兵役を負担する屯田兵制がおこなわれ、小土地所有の自由農民が増えていったが、その後は貴族が農奴を使い経営する大土地所有制度が拡大した。
- (イ) 西ヨーロッパでは、1300年頃から、領主が貨幣を手に入れるため、賦役をやめて直営地を分割して農民に貸し与え、生産物や貨幣で地代をおさめさせるようになった。また、14世紀に入ると、ペストの流行やあいつぐ戦乱などで農業人口が減少したため、領主は荘園での労働力を確保するために、農民の待遇を向上させるようになった。
- ⑤ (ア) キエフ公国では、ビザンツ風の専制君主政が導入された後、農民の農奴化と貴族の大土地所有が進んだ。その後、モスクワ大公国のイヴァン3世の治世では農奴を

土地にしばりつけて、農奴制の強化が推し進められた。

- (イ) クリミア戦争に敗北したロシアでは、アレクサンドル2世が農奴解放令を出したことで農奴に人格的自由が認められ、土地は貴族領主から農民個人に無償で返却された。





令和4年度採用 岐阜県公立学校教員採用選考試験  
第1次選考試験 高等学校 地理歴史(日本史・世界史)

問題番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
正解	③	⑤	②	③	⑤	③	④	②	①	⑤

問題番号	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
正解	①	④	②	③	⑤	⑤	③	③	⑥	④

問題番号	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
正解	⑥	①	③	①	⑦	⑥	③	④	⑤	③

